

しまねの社会教育基礎講座

〈浜田会場〉

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる

R5・7・13(木) : いわみーる401研修室

【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

浜田教育事務所 調整監 山藤 真樹

1. 社会教育とは

社会教育の目的は…『**人づくり**』

2. しまねの社会教育で大切にしたいこと

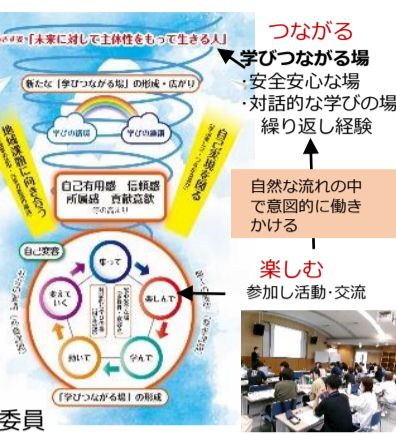
これまでの社会教育の成果と課題から、見直しをし
これからのしまねの社会教育は、

「**未来に主体性をもって生きる人づくり**」を目指すことに

社会教育は、住民の生活課題や地域課題について**住民自身が理解**を深め、その解決のために**当事者意識**をもって**主体的に実践**する人づくりを目指して行う教育活動。しまねでは、「**集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく**」というプロセスに、**丁寧に時間と手間をかける**という「社会教育の流儀」を大切に、学びをととした主体的な人づくりを進めます。

3. 社会教育の担い手…社会教育施設、社会教育主事、社会教育委員

個人と地域両方を
基盤において、学
びを大切にしながら
人づくり、社会
教育を進めていく



4. 実践する上で大切にしたいこと

現場を山登りに例えると、山頂にたどり着くにはいくつものルートがある。山頂は、みんなで目指す「地域の姿」。大切なのが住民の「基礎体力」づくり。集うこと、力を合わせることの良さを実感する様々な体験をできるだけすることで、地域課題に向きあい歩くことができる。

5. 社会教育関係者に求められる資質・能力

コーディネータカ・コミュニケーションカ・ファシリテーションカ、企画立案カ・プレゼンテーションカ。そして、何より**◆学び続ける力◆実践し続ける力!**

■住民の当事者意識の醸成のために

集って(集わせる仕掛け)**楽しんで**(楽しませる技)**学んで**(質の高い「学びの場」の創出)**動いて変えていく**(地域課題に向き合い自己実現に向かう意欲の喚起)社会教育の流儀を、押しつけがましくなく自然なカタチで進めていく。

(講義概要)



【事例発表・事例検討】初めての地域活動 ～竹灯ろうのワークショップ～

浜田市 国府まちづくりセンター 浅見 みゆう 氏



令和4年度公民館等職員研修受講生 (発表一部紹介)

事業の元になった地域課題

- ・子どもにもの作りを教えてくれた方が高齢になり、指導はNGに
- ・「竹害」と言われる竹を資源として活用できないか

ならば…人材発掘

小規模でワークショップを開催し、参加者の中から次世代講師を探す!

♡心がけたこと♡

- ・明るい雰囲気づくり
- ・Hさんにとって地域活動デビュー! まずは楽しいと感じてほしい
- ・サポート…なるべく負担をかけないように



仲間

参加者の中からHさんに声をかける
Hさんの妻の後押しと、本人も日頃から「子どものために何かできる」といいな」との思いがある
↓
講師として竹灯ろうのワークショップを一緒にすることに

(ワークショップ裏テーマ) 講師育成計画!

<竹灯ろうのワークショップ 流れ>

- ①打合せ 兼 顔合わせ
(自己紹介・事業目的の確認・竹灯ろう試作・WS当日のスケジュール確認・意見交換)
Hさんに全てを任せるのではなく、段階的に関わってほしいことから、今回は、こちらで計画や準備をする
- ②打合せ 兼 準備
(竹の採取とカット：竹の採取の協力者探しと採取、竹害についての話を聞く)
作業は、Hさん中心に行う、協力者から質問されたらHさんに答えてもらう
- ③ワークショップ
(ジャンボ竹灯ろう作り)
計画段階からHさんが考え動けるように投げかけた結果、自らデザイン画をつくったり、ワークショップの進行をしてくれた。

Hさん、WS後のエピソード

- ・学校支援→近隣の学校から「来年度、生徒たちができそうな物作りを教えにきてもらうことはできますか?」
- ・家族からの情報→「主人がすごく楽しそうにWSの様子を話してくれた」
- ・連携事業→他のセンターから「うちでもWSをしてもらえますか?」
- ・WS参加者の小学生から→お礼の手紙とお菓子をもらう

令和5年度の様子

- ・Hさん講師の事業 第二弾開催!!が・・・
- アウトドアめし～竹でご飯を炊いてみよう!～の予定が、Hさんケガで途中離脱
- 次の事業をしたくとうずうず!
- ・養護学校のI先生から、学校で竹を使った工作を教えてほしいと依頼され、また個人としてまちセン事業にボランティア参加したいので声をかけてと申し出あり
- ・“アウトドアめし”の成果物を見て、体験事業に興味を示してくれた地域の方が現れる



事例検討

- 「いいな!すごい!まねしたい!」
- ・困った事に対して解決策を考え実行
- ・人選・計画が上手
- ・Hさんを主体とした今後の発展のことも考えている
- ・協力者を選んでいる



- 聞いてみたいこと
- ・竹害の解決は進んでいる? →「害」の捉えを資源に
- ・仲間にHさんを選んだのはどうして? →人となりを見て、周りに支えがある
- ・養護学校の先生とつながるきっかけは? →養護学校のコーディネーターをしているので行き来がある

【演習】「自分にできることを考えよう!」

◇住んでいる(勤務している)地域の現状(良さ・問題点)を付箋に書き、グループで話し合う

- ・保守的
- ・地域資源がたくさんある
- ・多世代交流が少ない
- ・スーパーがなくなった
- ・世代交代が心配
- ・子育てしやすい
- ・地域防災がすすんでいない
- ・交通の便が非常に悪い
- ・海と山が近くにある
- ・人が優しい
- ・地域の祭りの担い手不足
- ・アピール下手
- ・会議・事業が決まった人のみ
- ・人間関係が希薄
- ・近所の人はほとんど顔見知り
- ・自給自足できる
- ・地域活動に若者の参加がない
- ・若者が集まる場所がない
- ・空き家が多い



◇地域が10年後どうなっているといいかを付箋に書き、理想の地域像を紹介し合う

- ・少ない人口でもなりたつシステム
- ・ここに住んでいたいと思う人が増える
- ・住民同士の協力が強い
- ・違いを受け入れる
- ・使いやすい移動の手段
- ・地域行事に参加する人が増える
- ・若者が地域のリーダー
- ・若者と高齢者の共存
- ・子どもが伸び伸び暮らせる
- ・イベントがたくさんある
- ・地域のイベントが続いている
- ・安全・安心な町
- ・地域で子どもを育てる
- ・資源を活かした特産で有名に
- ・誰もが住みやすい町
- ・元気な人が多い
- ・助けあいができる
- ・子育てがしやすい町へ
- ・地域の支え合いで困り事を解決できる町



◇「理想の地域像」を実現するために何が必要かを考え、模造紙に書き込み、実際に取り組みそうなものを丸で囲む

- ・キーパーソンを探す
- ・いろいろなイベントでみんなの能力を把握
- ・困り事を聞く場と時間を設ける
- ・住民が顔を合わせる場をつくる
- ・若者の意見を尊重・受け入れる
- ・老若男女が交流できる場の提供
- ・大学・学生との連携
- ・子育てしている人が集まる場
- ・子育て支援
- ・健康促進事業
- ・助けあい隊
- ・困ったら声を出せる環境
- ・挨拶を交わす
- ・高齢者が稼げる
- ・ショッピングカー
- ・空き家の活用
- ・子ども対象のイベントに高齢者参加
- ・イベント周知にSNSを(使い方若者がレクチャー)
- ・交流の循環



◇理想の地域像に向け、自分がやりたいことを書き紹介する

- ・まず、地域の人の顔と名前を覚える
- ・地域・町内会を引っ張る人材を見つける
- ・自分から地域のさまざまなイベントに出向く
- ・イベントに若者・高齢者に声をかけ参加してもらう
- ・PR活動
- ・インターネット活用
- ・イベントの周知
- ・大人と子どもの連携
- ・困り事を聞く場を設ける
- ・イベントにポイント制導入
- ・住人の気づいていない地域資源を活かしたPR
- ・小・中・高の子ども達が主体・主導のイベント
- ・いろいろな人と情報交換
- ・つながりづくり 若者×地域

(□は出た意見)

【ふりかえり】研修をふりかえって、思ったこと・感じたこと・これからに向けて考えたこと

- ・つながることの大切さ
- ・若者の意見に耳を傾ける
- ・長所、特技発掘
- ・ひとつづくりは発想の転換でのりきろう
- ・みんなが笑っているのが一番
- ・行動に移す
- ・あまり難しく考えない
- ・社会教育と生涯学習は似て非なるもの
- ・人とのつながり(方)仕組みづくり 地域を巻き込む



【アンケート】 (一部抜粋)

- ・講義で社会教育の意味やねらいについて学ぶことができた。
- ・事例発表を聞いて、人づくりは大事なことだと勉強になった。押しつけにならないような仕掛けの工夫を参考にしたい。
- ・演習は難しいテーマだったけれど意見を出し合うことができ楽しかった。
- ・私ができることがだんだん明確になってきてスッキリした。
- ・グループで話し合うことで、様々な視点の意見を聞くことができおもしろかった。
- ・今回の研修を通して社会教育の目的が人づくりであると分かった。「プロセスに時間をかける」ことが大切だと感じた。
- ・初めての研修でしたがとてもわかりやすく楽しく学べた。自分も楽しんで取り組みたい。